

授業科目名	情報リテラシー論 1	担当教員名	野村 松信
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	必修科目	授業形態	講義・演習
配当年次・学期	1年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>大学生活を送る上で必要な学内情報システムおよび図書館情報システムの利用方法を習得する。また、現在、広く社会で利用されているOfficeソフトについての知識および情報セキュリティやソーシャルネットワークに関する知識と技術を習得する。</p>			
授業の概要			
<p>本授業では、まず、大学生活を送る上で必要な学内情報システム等の利用方法について説明する。次に、現在、広く社会で利用されている Office ソフト等の基本知識および情報活用能力（情報収集～表現）について学ぶ。さらに、社会基盤として利用されているインターネットに関する基礎的知識と様々な技術について解説した上で、社会生活に必要な情報セキュリティに関する知識・情報モラルやソーシャルネットワークに関する基礎的知識と技術について理解を深める。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス，学内情報システムの利用方法（1），パスワード設定等 第2回 学内情報システムの利用方法（2），図書館情報システムの利用方法 第3回 プレゼンテーションソフトとは 第4回 プレゼンテーションソフトによる効果的な表現方法 第5回 ワードプロソフトによるビジネス文書作成 第6回 表計算ソフトの関数機能とグラフ作成機能 第7回 ワードプロソフトと表計算ソフトの連携 第8回 情報とは何か 第9回 コンピュータと OS(Operation System)の基礎知識 第10回 コンピュータネットワークの基礎知識 第11回 インターネットと検索エンジンの歴史 第12回 情報倫理とは 第13回 情報技術とセキュリティ 第14回 インターネットと犯罪 第15回 ソーシャルネットワークサービスと情報モラル</p>			
履修上の注意			
テキスト			
「情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー」高橋・原田・佐藤・岡目部著（技術評論社）			
参考書・参考資料等			
「キーワードで理解する最新情報リテラシー」日経BP 社 必要に応じて授業中に参考資料・プリントを配布する。			
学生に対する評価			
授業態度20%、課題80%で評価			

授業科目名	地域プロジェクト演習 A	担当教員名	菅原香織 裴 鎮奭
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習（集中）
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 本授業では、アーティストやデザイナーなど美術関係者が、どの様に社会と接点を持ち社会の中でどのような役割を担っているかを実践的に学ぶことを目標とする。そのために現在秋田県内各地で実際に行われている様々な地域プロジェクトに参加することで、今後自分がいかに社会と関わるかという意識を持つことをテーマとする。			
授業の概要 最初に秋田県内各地で行われてきた地域プロジェクトの事例を講義形式で紹介することでプロジェクトごとの特性や多様性を学ぶ。 次に紹介された事例などを元に実際に自分が参加するプロジェクトを決めて、どのような形での参加が可能なかを検討する。実際のプロジェクトへ参加し現場で学ぶことがこの授業の一番の重要なポイントとなる。 プロジェクト参加後はレポートを作成しレポートの内容を報告会でプレゼンテーションする。			
授業計画 第1回 事例紹介1（地域プロジェクトの実践例） 第2回 事例紹介2（地域プロジェクトの実践例） 第3回 参加する具体的なプロジェクトの検討 第4-12回 地域プロジェクトへの参加（学外活動） 授業としての参加期間は最低2～3日程度を目安とする （実際の参加日数については各プロジェクトの実情に合わせて柔軟に行う） 第13回 参加プロジェクトのふりかえりと情報共有 ・同じプロジェクトの参加者で、良かった点・反省点・成果物等 活動の様子わかる画像などを共有する 第14回 レポートの作成 プロジェクトへの参加を受けて報告書を作成する ・レポートはポートフォリオに使用できるような体裁にし、 各自今後のキャリアに使用できるようにする。 第15回 レポート報告会 プレゼンテーション			
履修上の注意 学外で行われる授業の際の交通費などは個人負担とする 年度ごとに参画するプロジェクトは変化するので実情に合わせて授業計画の内容は適宜変更する			
テキスト プロジェクトごとに適宜資料を配布する			
参考書・参考資料等 地域を変えるデザイン-コミュニティが元気になる30のアイデア など			
学生に対する評価 プロジェクトへの取り組み状況 50% レポート 30% プレゼンテーション 20%			

授業科目名	アカデミック・リテラシー1	担当教員名	天貝 義教
授業科目区分	キャリア科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>大学生に必要とされる読解力、思考力、論述力、学術情報の活用法等を身につけ、社会人・表現者としての基礎能力を培うことを目標とする。この授業では、映像や文献に内在する論点とその背景にある思想・理論を知り、学術情報のアクセス・活用方法を身につけ、自らの考えを簡潔かつ説得的に表現できるようになることを目指す。</p>			
授業の概要			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 映画を主とする資料映像および画像、文献などを2-3回に分割して取り上げ、背景となる社会情勢や関連する思想・理論を理解する（課題の予習・復習を要する） 2. コメント執筆を通して自らの考えを簡潔にまとめて表現すること、論述のルールやテクニックの初歩について学ぶ（毎授業終了後にコメントを提出） 3. 文献の見つけかたと読み込み、図書館の活用方法を身につける 4. 1200字程度の小レポート作成（授業日程終了後、指定日までに作成・提出のこと） 			
授業計画			
<p>第1回：アカデミック・リテラシーとは何か 第2回：題材の内容を読み取る 第3回：キーワードを見つける 第4回：感想文・作文とレポート・論文の違い 第5回：説得的論述とは何か 第6回：パラグラフ・ライティング 1 問いを立てる 第7回：パラグラフ・ライティング 2 順序立てて論じる 第8回：パラグラフ・ライティング 3 説得的に論じる 第9回：文献の見つけかたと図書館の活用 第10回：文献の読み込みと内容の要約 第11回：自己の議論と他者の議論を分ける 第12回：小レポートの書き方 1 与えられた課題に応える 第13回：小レポートの書き方 2 論理の一貫性を意識する 第14回：小レポートの書き方 3 結論を明示する 第15回：授業のまとめ （定期試験）</p>			
履修上の注意			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 初級レベルの授業内容としている。後期のアカデミック・リテラシー2の履修は義務ではないが、1,2を続けて取ると受講者の理解がより深まる構成としている。 2. 映像を多用するため、遅刻者、および私語や携帯電話・スマートフォンの操作等により他の受講者の迷惑となる行為をした者には厳しい対処を取るので十分に注意のこと。 3. 弱視・難聴その他映像視聴等に合理的配慮が必要な場合は申し出があれば対応する。 			
テキスト			
専修大学出版企画委員会 改訂版『知のツールボックス』 専修大学出版局 2009			
参考書・参考資料等			
授業時間中に随時紹介する			
学生に対する評価			
授業の参加状況と授業時間外の学修状況（コメント等の課題の提出と内容）50%、および期末小レポート50%の総合評価。評価方法の詳細は初回授業で指示する。			

授業科目名	情報リテラシー論 2	担当教員名	野村 松信
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義・演習
配当年次・学期	1年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>現在、広く社会で利用されているOfficeソフトによるレポートや卒業論文等の作成時に必要な基礎知識や文書構造について理解し、基本操作を取得する。また、情報発信に必要な技術としてプログラミング言語（HTML, JavaScript）に関する基礎技術を取得し、さらに、メディアに関する理解を深め、高度情報化社会における情報活用能力を取得する。</p>			
授業の概要			
<p>本授業では、「情報リテラシー論 1」の内容を発展させ、まず、Office ソフトのビジネス分野での利用、レポートや論文作成など基礎知識や技術について紹介する。次に、情報の加工や情報発信のために必要な技術として、画像処理やプログラミングに関する基礎的知識について紹介する。さらに、コンピュータリテラシーとメディアリテラシーの関係、現代社会における情報メディアと人間の関わり、情報セキュリティ、ソーシャルメディアを通しての情報活用能力（情報収集～発信力）等について理解を深める。</p>			
授業計画			
<p>第 1 回 ガイダンス、ワープロソフトによる名刺・ビジネス文書作成 第 2 回 ワープロソフトによるレポート作成の基礎知識と基本操作 第 3 回 文書構造と数式・表・グラフ入力の基本操作 第 4 回 デジタル画像、画像処理技術の基礎知識 第 5 回 HTML(Hyper Text Markup Language)とは 第 6 回 HTML の活用 (1) 第 7 回 HTML の活用 (2) 第 8 回 JavaScript の基礎知識 第 9 回 オブジェクト、分岐処理、繰り返し処理 第 10 回 インタラクティブ処理、画像データ、スライドショー 第 11 回 キャンバス機能、アニメーション機能 第 12 回 マップ (地図) 活用 第 13 回 情報発信・サイト構築の基礎知識 第 14 回 メディアの変遷とメディアリテラシー 第 15 回 情報通信社会とリテラシー</p>			
履修上の注意			
<p>「情報リテラシー論 1」の単位を修得した上で、履修することが望ましい。</p>			
テキスト			
<p>「情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー」高橋・原田・佐藤・岡目部著（技術評論社） 「やさしい JavaScript のきほん」高橋麻奈著（SB Creative）</p>			
参考書・参考資料等			
<p>「キーワードで理解する最新情報リテラシー」日経BP 社 必要に応じて授業中に参考資料・プリントを配布する。</p>			
学生に対する評価			
<p>授業態度 20%、課題 80%で評価</p>			

授業科目名	地域プロジェクト演習 B	担当教員名	菅原香織 裴 鎮奭
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習（集中）
配当年次・学期	1・2年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 現在秋田県内各地で行われている地域プロジェクトに参加し、プロジェクトのメンバーとして具体的な活動を行うことにより、アートやデザインが社会でどのような役割があるのかを実践的に学ぶことを目標とする。実際のプロジェクトに参加することで行動力・コミュニケーション力・コーディネート力・マネジメント力などを身につけ、学生自身のキャリア形成に活かすことをテーマとする。			
授業の概要 授業冒頭では各地で行われてきた地域プロジェクトの事例を紹介する。そうした事例を知ることによって学生各自が自分で参加する学外のプロジェクトを決定する。プロジェクトへの参加は学生各自の能力に合わせた上で一番積極的に参加できる形式が望ましい。 実際のプロジェクトへ参加し現場で学んだ後にレポートを作成しレポートの内容を報告会でプレゼンテーションする。			
授業計画 第1回 事例紹介1（地域プロジェクトの背景を知る） 第2回 事例紹介2（地域プロジェクトの背景を知る） 第3回 参加するプロジェクトの検討（参加内容・形式・スケジュール検討） 第4-12回 地域プロジェクトへの参加（学外活動） 授業としての参加期間は最低2～3日程度を目安とする （実際の参加日数については各プロジェクトの実情に合わせて柔軟に行う） 第13回 参加プロジェクトのふりかえりと情報共有 ・同じプロジェクトの参加者で、良かった点・反省点・成果物等 活動の様子のわかる画像などを共有する 第14回 レポートの作成 参加したプロジェクトの報告書を作成する ・レポートはポートフォリオに使用できるような体裁にし、 各自今後のキャリアに使用できるようにする 第15回 レポート報告会 プレゼンテーション			
履修上の注意 学外で行われる授業の際の交通費などは個人負担とする 年度ごとに参画するプロジェクトは変化するので実情に合わせて授業計画の内容は適宜変更する			
テキスト プロジェクトごとに適宜資料を配布する			
参考書・参考資料等 地域を変えるデザイン-コミュニティが元気になる 30 のアイデア など			
学生に対する評価 プロジェクトへの取り組み状況 50% レポート 30% プレゼンテーション 20%			

授業科目名	学外実習（インターンシップ1）	担当教員名	キャリアセンター長 キャリアセンター教員
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	実習（集中）
配当年次・学期	1年次～3年次通年	単位数	1単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>自らの将来のキャリアに関連した企業の就労体験や、希望する業種の実務体験を通して、卒業後の進路をより具体的に描けるようになることを目標とする。また、実社会において社会人として求められる素養を学び、自分の課題を発見することで、卒業までのキャリアプランを立てられるようになることをテーマとする。</p>			
授業の概要			
<p>この授業では、事前の準備として①事前指導、②事前交渉を学び、学外において③インターンシップの実施、⑤報告書・レポートの作成、最後に⑥報告会に参加し他の学生の実習先での経験を聞くことで、より多様なキャリアを知る機会とする。</p>			
授業計画			
第1回	事前指導1	インターンシップとは何か (受入先企業や団体などの選び方・業界研究の方法)	
第2回	事前指導2	企業へのアポイントの取り方 (問合せ方法、手紙、メールの書き方、電話かけ方など)	
第3回	事前指導3	実習先での心構え (実習先での礼儀作法や身だしなみなど)	

第4回~7回	事前交渉	受入先企業の選定とアポイントメント	

第8回~27回	インターンシップの実施	(集中実習) 各自が選んだ企業や団体等の受入先で実際の実習を行う。 実習の期間は1週間(実働5日間)程度行う。 (受入先の都合や業務内容によって多少の変更は認める。)	

第28回	報告書・レポートの作成		

第29回	インターンシップ報告会1		
第30回	インターンシップ報告会2	まとめ	
履修上の注意			
<p>インターンシップ先までの交通費や受入先で必要になる経費は学生の実費となる。受け入れ先は学生が各自自分で見つけるものとする。</p>			
テキスト			
<p>必要がある場合資料などを適宜配布する。</p>			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価			
<p>インターンシップ先選定とその交渉・調整(20%)、インターンシップ終了後の報告書・レポート(40%)、企業からの評価報告書(40%)で評価して、100点満点で60点以上を単位認定要件とする。</p>			

授業科目名	学外実習（インターンシップ2）	担当教員名	キャリアセンター長 キャリアセンター教員
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	実習（集中）
配当年次・学期	1年次～3年次通年	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>自らの将来のキャリアに関連した企業の就労体験や、希望する業種の実務体験を通して、卒業後の進路をより具体的に描けるようになることを目標とする。また、実社会において社会人として求められる素養を学び、自分の課題を発見することで、卒業までのキャリアプランを立てられるようになることをテーマとする。</p>			
授業の概要			
<p>この授業では、事前の準備として①事前指導、②事前交渉を学び、学外において③インターンシップの実施、⑤報告書・レポートの作成、最後に⑥報告会に参加し他の学生の実習先での経験を聞くことで、より多様なキャリアを知る機会とする。</p>			
授業計画			
第1回	事前指導1	インターンシップとは何か (受入先企業や団体などの選び方・業界研究の方法)	
第2回	事前指導2	企業へのアポイントの取り方 (問合せ方法、手紙、メールの書き方、電話かけ方など)	
第3回	事前指導3	実習先での心構え (実習先での礼儀作法や身だしなみなど)	

第4回~7回	事前交渉	受入先企業の選定とアポイントメント	

第8回~27回	インターンシップの実施（集中実習）	各自が選んだ企業や団体等の受入先で実際の実習を行う。 実習の期間は2週間（実働10日間）程度行う。 (受入先の都合や業務内容によって多少の変更は認める。)	

第28回	報告書・レポートの作成		

第29回	インターンシップ報告会1		
第30回	インターンシップ報告会2	まとめ	
履修上の注意			
<p>インターンシップ先までの交通費や受入先で必要になる経費は学生の実費となる。受け入れ先は学生が各自自分で見つけるものとする。</p>			
テキスト			
<p>必要がある場合資料などを適宜配布する。</p>			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価			
<p>インターンシップ先選定とその交渉・調整（20%）、インターンシップ終了後の報告書・レポート（40%）、企業からの評価報告書（40%）で評価して、100点満点で60点以上を単位認定要件とする。</p>			

授業科目名	グラフィック・レコーディング演習	担当教員名	菅原香織 平元美沙緒
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	2・3年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 議論や講演などを文字や記号、イラストなどを用いて、リアルタイムに手描きで記録し可視化する技術「グラフィック・レコーディング（GR）」を学び、会議や講演、まちづくりワークショップの場などで活躍できる能力を身につけることを目標とします。			
授業の概要 本授業では、様々な話し合いの場におけるGRの模擬練習によって、基本的なGRの技術を習得します。また学外のGRの現場での実習を通して実践的なスキルアップを図ります。担当教員と学内教職員、第一線で活躍するプロフェッショナル（外部講師）と連携して授業運営を行います。			
授業計画 第1回：ガイダンス（GRとは ビジュアライジング・スキル 自己紹介） 第2回：グラフィック・パターンと道具の使い方（文字・線・パターンを描く） 第3回：グラフィックの開発（速く描く 短文要約からグラフィックを開発） 第4回：タイムラグ・レコーディングの練習1（物語を描く） 第5回：タイムラグ・レコーディングの練習2（長文を描く） 第6回：タイムラグ・レコーディングスキルのふりかえりと共有 第7回：リアルタイム・レコーディングの練習1（スピーチを描く／プレゼン動画） 第8回：リアルタイム・レコーディングの練習2（対話を描く／複数人の対話動画） 第9回：リアルタイム・レコーディングの練習3（生の2人の対話を描く） 第10回：リアルタイム・レコーディングの練習4（生の3人の対話を描く） 第11回：リアルタイム・レコーディングのふりかえりと共有 第12回：講義①（グラフィック・レコーディングの意義と活用） 第13回：講義②（グラフィック・レコーディングの提案力トレーニング／実習打合せ） 第14回：現場実習 第15回：講評 ※ポートフォリオの提出 ※実習先については授業内で告知をします			
履修上の注意 教材（筆記用具、材料など授業内で指示）と学外実習の際の交通費は個人負担とする積極的に参加し、その際のGRを撮影し各自ポートフォリオとしてまとめること			
テキスト 状況に応じたテキストの配布			
参考書・参考資料等 Graphic Recorder—議論を可視化するグラフィックレコーディングの教科書（清水淳子著）			
学生に対する評価 課題 80% 授業態度 20%			

授業科目名	キャリアデザイン1	担当教員名	菅原 香織、井上 豪、大八木 敦彦
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2年次通年	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>学業と学生生活に密接に関係しているキャリアデザインの意義を理解し、キャリアデザインを主体的に行えるようになるための基礎知識を習得する。授業を通して、実現したい将来像やそこに至るプロセスを具体的に描けるようになることを目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>本授業では、自分の経験や人生観を念頭におきながら、自らが進路を設計することを「キャリアデザイン」と解釈する。社会が求める人材、業界・職種を理解し、キャリアデザインをする際の基礎知識を習得する。また、各専攻のキャリアデザイン事例を聴講し、自身の進路の可能性を広げ、専攻選択ための参考とする。</p>			
授業計画（順不同）			
<p>第1回 : キャリアデザインの意義 第2回 : インターンシップの現状 第3回 : 特別講師によるキャリアデザイン事例 第4回 : 景観デザイン専攻のキャリアデザイン事例 第5回 : アーツ&ルーツ専攻のキャリアデザイン事例 第6回 : コミュニケーションデザイン専攻のキャリアデザイン事例 第7回 : ビジュアルアーツ専攻のキャリアデザイン事例 第8回 : ものづくりデザイン専攻のキャリアデザイン事例 第9回 : 自己適正理解 第10回 : ポートフォリオの必要性理解と基礎知識の習得① 第11回 : 社会が求める人材（労働市場分析 業界・職種の概要） 第12回 : 秋美クリエイティブサミット 第13回 : 作家&デザイナーのキャリアデザイン事例 第14回 : 卒業生によるキャリア公開授業 第15回 : ポートフォリオの必要性理解と基礎知識の習得②</p> <p>※ 実際の社会の動きに合わせて授業計画の見直し・順番などを入れ替えて行うことがあります。</p>			
履修上の注意			
<p>毎回、授業アンケートの提出を持って出席とする。尚、評価としてレポートがあることから、提出アンケート以外に自身での内容の記録が必要である。多くの著名な外部講師に非礼に当たらぬよう正面入り口2カ所は、授業開始後、施錠する。</p>			
テキスト			
指定無し			
参考書・参考資料等			
随時提示する。			
学生に対する評価			
授業への取り組み状況 20% ワークシート 30%、ポートフォリオ 30%、レポート 20%			

授業科目名	コミュニティデザイン 演習	担当教員名	官能 右泰
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	2年次通年	単位数	4単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>プレゼンテーションは、デザイナー、クリエイターにとって、デザインを他社に知ってもらう最も大切なクリエイティブ行為であり、クライアントからコンセプトを明示された後、表現戦略やデザイン案を提示することである。この授業を通じて、コミュニティデザインにおける感性を養うとともに、伝統文化とデザインについての能力高めることを目標としている。</p>			
授業の概要			
<p>この授業では、地域にある「彌高神社」と産学連携による具体性のあるテーマの設定のもとに、斬新なオリジナル御守のデザイン開発を実現させることを視野に入れ、実践的な体験とリサーチを基本として、様々な視点に立ってコミュニティデザイン演習を行う。 [注]授業の30%程度、学外授業（土・日曜日を含む）を実施する。</p>			
授業計画			
第1回	オリエンテーション		
第2回	履修者決定（抽選）、チーム編成、制作スケジュールと詳細説明。 ※4. 22（日）神輿渡御祭／彌高神社…参加は任意		
第3回	神社と御守の説明、DVD鑑賞（日本の神社百景）。		
第4回・5回	5. 1（火）学外授業／神社の例祭（宵宮祭）体験・調査（午後4時30分集合）		
第6回・7回	御守のアイデア展開。		
第8回・9回	御守の試案制作。		
第10回	中間チェック。中間プレゼンテーション資料作成。		
第11回・12回	学外授業／中間プレゼンテーション。		
第13回・14回	御守の再検討・制作。		
第13回・16回	最終プレゼン準備・予行演習。		
第17回・18回	学外授業／最終プレゼンテーション。		
第19回～22回	授業成果発表会（1月予定）のための撮影・準備作業		
第23回～26回	台紙作成、御守詰め込み作業、巫女説明会、巫女体験（年末年始）		
第27回～30回	授業成果発表会準備（搬入・搬出）およびギャラリー・トーク開催。		
※授業時間内での制作に重点を置くが、必要があれば時間外にも制作を進めること。			
履修上の注意			
<p>数単位によるグループ演習、学外授業の関係上、時間厳守で遅刻・欠席をしないこと。学外授業は限られた空間の神社社務所内で実施するため、抽選による選抜（15名以内）を実施いたします。</p>			
テキスト			
授業中に資料コピーを適宜配布する。			
参考書・参考資料等			
特になし。			
学生に対する評価			
<p>授業における御守製作会社との最終プレゼンテーションとグループの取り組み姿勢を総合評価して、100点満点で60点以上を単位認定要件とする。</p>			

授業科目名	キャリアデザイン2	担当教員名	菅原 香織、瀬沼 健太郎
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	3年次通年	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>加速的に変革を遂げる現代社会において、働き方も創造していく時代を迎えている。人生のスタイルも職業自体も、すべてが創造の対象となる。今後の人生軸となる自活方法に主眼を置き、卒業後の具体的な人生を俯瞰的に観察し創造していく力を醸成する。加えて、キャリアデザイン1にて形成された自身の進路選択に対応した実践的な内容を取り込み、学生が自ら行動できるための知識とノウハウを習得する。</p>			
授業の概要			
<p>学生は将来において、自身のキャリアを自ら創造していかなければならないが、在学中から自活方法を模索・検証し、具体的な行動をとるために、キャリアデザイン2は授業内容を実践的な構成とする。学生自身の具体的なキャリアイメージの構築支援や保有能力・発揮能力等自己分析支援、エントリーシート・履歴書対策、面接対策や、ポートフォリオ対策、作家対策、求人検索サイト使い方講座など即実践に結びつく内容で構成する。また、日本・世界で活躍する外部講師による支援体制も適宜授業に盛り込み、多様化した社会へ対応すべく、これまでの枠にとらわれない人材形成をめざし、常に思考を休めることなく、自身のキャリアを切り拓く力が重要であることを理解する。</p>			
授業計画（順不同）			
<p>第1回 : 自己分析、適性診断（フィードバック含む） 第2回 : インターンシップ対策 第3回 : 就活エージェント紹介と活用方法（登録会含む） 第4回 : 採用試験対策講座（SPI 理解と一般常識理解） 第5回 : ポートフォリオ講座（応用編）① 第6回 : 特別講師による講義（5-1） 第7回 : 特別講師による講義（5-2） 第8回 : 特別講師による講義（5-3） 第9回 : 特別講師による講義（5-4） 第10回 : ポートフォリオ講座（応用編）② 第11回 : 日本経済とマーケット分析。業界理解の必要性和業界概要 第12回 : 秋美クリエイティブサミット 第13回 : 特別講師による講義（5-5） 第14回 : ES・履歴書書き方講座および添削指導 第15回 : 面接対策講座</p> <p>※ 実際の社会の動きに合わせて授業計画の順番などを入れ替えて行うことがあります。</p>			
履修上の注意			
<p>毎回、授業アンケートの提出を持って出席とする。尚、評価としてレポートがあることから、提出アンケート以外に自身での内容の記録が必要である。多くの著名な外部講師に非礼に当たらぬよう正面入り口2カ所は、授業開始後、施錠する。</p>			
テキスト			
指定無し			
参考書・参考資料等			
随時提示する。			
学生に対する評価			
授業への取り組み状況 20% ワークシート(履歴書含む)30%、ポートフォリオ 30%、レポート 20%			